

2020年5月の星空

北斗七星が宵空の高いところに見えている。「ひしゃく」の柄のカーブに沿って北から天頂、南へと目を移すと、うしかい座の1等星アルクトゥールス、おとめ座の1等星スピカへと続く、春の大曲線を辿ることができる。さらに、しし座のデネボラを探して春の大三角を、レグルスも探してしし座の姿を、…と、いろいろな形や星座が見つけれられるだろう。空を大きく仰ぎ見るのは、きっと心にも良いはずだ。

夕空に見えていた**宵の明星の金星**は今月でいったん見納めとなる。**水星との大接近**(22日前後)や**細い月との共演**(24日)を楽しんだ後は、来月以降の明けの明星を心待ちにしよう。また、**未明から明け方**には木星と土星が並んで見えている。**13日には月を含めた3天体集合**が起こる。

遠出はできないご時世、身近で手軽・気軽に見られる現象や星々の魅力を再確認してみてはいかがだろうか。どうぞご健康、ご安全に。

月と木星、土星が接近

2020年5月13日(水)の未明から明け方、南東から南の空で月と木星、土星が接近する。

5月13日の未明から明け方、南東から南の空で月齢20の下弦前の半月と木星、土星が接近して見える。

視野7度の双眼鏡で3天体を同時に見ることができる珍しいチャンスだ。接近の様子を写真にも収めてみよう。

接近中の木星と土星は、日付が変わる前後に昇るようになっている。本格的な観察シーズンはまだ先だが、一足先に天体望遠鏡を木星と土星に向けてみるのも良いだろう。次回の接近は6月8日から9日。



細い月と水星、金星が接近

2020年5月24日(日)の夕方、西北西の低空で細い月と水星、金星が接近する。

5月24日の夕方、西北西の低空で月齢2の細い月と水星、金星が接近して見える。

接近中の水星と金星に地球照を伴った幻想的な細い月が近づき、3天体が整った三角形に並んで見えて面白い。肉眼や双眼鏡で眺めたり、写真に収めたりしてみよう。日の入り30分後の高度が10度前後とかなり低いので、西北西の空が開けたところで観察しよう。

